

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「一人ひとりの障がい等の状況に応じた最も適切な教育の創造、地域や関係機関との連携を深めていき、ワクワクを“創発”する守口支援学校」をめざす。
支援学校として専門的機能を発揮し、教職員と児童生徒及び保護者との信頼とつながりを深めながら、以下のことを中心とした教育を展開する。
(1) 卒業後を見すえ、小学部・中学部・高等部の一貫性のある教育活動を進める中で、豊かな人間性と社会性を育て、自己実現の達成をめざす。
(2) 健康の保持・増進に関する習慣や態度を育て、情緒の安定を図り、元気に明るく誠実に生きる態度を養う。
(3) 安心で安全な教育環境のもと児童生徒の豊かな個性を活かしつつ一人一人の自己肯定感を高める。
(4) 仲間とつながり、地域の人々とともに生きていく喜びを実感する中で、互いを思いやり、尊重しあう態度を育てる。

2 中期的目標 【ポジティブ（P）に、アクティブ（A）に、クリエイティブ（C）に！】

- 1（キャリア教育）子どもたちとともに卒業後を見すえ、**自立・自己実現、社会参加**に向けた、12年間の**一貫性のある胸躍る教育活動**を進める。
(1) 小学部から夢や志をもって自己の可能性を広げ、**積極的に**粘り強くチャレンジする姿勢を育むキャリア教育の推進。(P)
(2) 学部間の連携を深め、三学部の連続性のある学びを**構築**し教育活動の検証や改善を進めることによる組織の活性化。(C)
(3) 関係機関と**能動的に**連携し、一人一人が希望する進路の実現を支援する体制の充実。(A)
(4) キャリア教育の教育的意義を正しく理解し、保護者のニーズに対応できる基礎的な知識・技能の**構築**。(C)
- 2（教育力向上）教員としての**資質、魅力ある（期待に応えられる）教育力**、そして、これからの時代の変化に対応できる学校**組織力の向上**
(1) 指導力、授業力の向上を組織的に推進し、子どもたちにとって「**独創的かつ**魅力的かつ分かりやすい授業」の実施をめざす。(C)
(2) 一人ひとりが「高度な専門職として」より確かな人権意識を身に付け、組織として特別支援教育に関する専門性の**向上をめざす**。(A)
(3) 教員間の意思疎通を図り、相互に高めあう職場環境づくりにより、教職員の組織力の**向上を図る**。(A)
(4) ICT 機器の**積極的**かつ効果的な活用により、学びの深化を図り、1人1台端末に関する保護者のニーズを把握し、検討を重ねる。(A)
- 3（安全安心）**人権を尊重**し、保護者や地域から**信頼され、安心・安全に**過ごせ、**楽しい**学校づくり
(1) 教育活動全体を通して保健・安全・衛生管理の指導・支援の徹底を図り、安全で安心な教育環境を**推進**する。(A)
(2) 危機管理体制の充実に向けた防災教育に取り組み「**主体的に行動する態度**」と「助け合う」意識の向上。(A)
(3) 人権意識をもって**ポジティブ**な関わりと体罰防止と個人情報の適正な管理運用を行う体制の確立。(P)
(4) 教職員全員が心身ともに健康な状況で業務に**邁進**できるよう働き方改革のもと効率の良い業務推進を行う。(A)
- 4（地域連携）**センター的機能の充実**と、地域社会の中で自己肯定感と自己有用感を高め**意欲的に**生きるための**地域連携の推進**
(1) センターの機能の発揮や内容の充実により、校内外ともに教員の専門性の**向上を図る**。(A)
(2) 魅力的な取り組みを**積極的に**情報発信するなど広報活動の充実により保護者、地域、関係機関との連携を深める。(P)
(3) 交流及び共同学習の充実や地域活動への**積極的**参加で相互理解を深める。(P)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 自立・自己実現、 社会参加に向けた、 一貫性のある教育活動の推進	(1) 児童生徒が夢や志をもって粘り強くチャレンジする姿勢を育むキャリア教育の推進。 (2) 学部間の連携と情報共有を深め、三学部の連続性のある学びの構築 (3) 一人一人が希望する進路の実現を支援する体制の充実。 (4) キャリア教育の教育的意義を正しく理解し、保護者のニーズに対応できる基礎的な知識・技能の構築。	(1) ア 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」のより一層の活用 イ 児童生徒等の状況に応じた指導の工夫と改善 ・校則や校内ルールの確認 (2) ア 生徒の状況や実態に応じた適切な教育課程の編成と2期制申請に向けた検討 ・三学部の連続性、一貫性を重視した校外行事の実施 ・新時間割の運用、検証及び改善点の定着。 ・学年進行の授業体制等に向けて ・三学部の連続性、学びの構築が実現できるシラバスの見直し ・行事（むつみ祭等）の検証 (3) ア ・児童生徒の進路選択における教育活動の充実と進路指導に関する体制づくりの検討 小中学部：進路学習の整理と進路学習に繋がる取り組みの共通理解を進める。 中学部：進路指導の充実と職場体験学習の改善 高等部：各学年で主体性のある進路学習の実施。 <u>魅力ある職業自立コースに向けての検討</u> イ ・保護者への進路に関する情報提供の充実 ・定着支援、アフターフォローに向けた取り組みの充実 ・年間を通じて卒業生が相談できる体制を構築する。 (4) ア 「キャリア教育」の推進に向けた専門性向上 ・基礎的な知識・技能の構築。 ・進路指導への理解推進のための校内研修 ・効果的な職員施設見学会の実施	(1) 保「教職員は子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している」90%以上維持[90.4%（0.6P↓）] ア ・校務支援システムの導入に関わる「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の新様式システムの活用とマニュアルが作成できたか。 イ ・児童生徒への校則や校内のルールについて見直し確認できたか。 (2) ア ・R5年度に改定した行事シラバスに合わせた校外学習や泊行事の実施、内容の検証ができたか。 ・全学部において時間割（校時や特別教室の使用等）に関するアンケートを実施、検討、改善ができたか。 ・学年進行における授業体制の引き続きの検討、課題の解消ができたか。（主に中学部高等部） PTを立ち上げ、職業自立コースの新教育課程の検討ができたか。（主に高等部） ・三学部のシラバスが連続性を持って、学びの構築が実現できる内容になるように、全校教科会で内容を確認、検証できたか。 ・各学部で実状に応じた行事の実施について、意見交換の上、検討できたか 保「学校は保護者のニーズを踏まえた教育活動に取り組んでいる」90%以上維持[94.2%（4.7P↑）] 教「児童生徒の学びを支援するため、学部間の連携が円滑に行われうまく機能している」75%以上維持[81%（7P↑）] (3) ア ・それぞれの学部で進路指導進路学習の「具体的な取り組み計画や内容」の整理と改善検討実施が出来たか。 ・中学部高等部教員のアビリンピック見学ができたか。 ・職場体験学習について検討する場を持てたか ・職業自立コースの教育活動充実に向けた教育課程の改善に向けて、検討できたか。 ・保護者対象の説明会や実習先就労先の見学会（8か所以上、各会5名以上参加）を実施できたか。 イ ・旧担任等による進路先訪問（R6卒業生全員）が実施できたか。 ・卒業生対象の相談会（R5,6年度卒業生）を2回実施できたか。 ・ホームページの卒業生向けページの内容を充実できたか。 ・同窓会や行事、相談会など来校の機会にアンケート等で卒業生の意見をきくことができたか。 (4) ア ・小・中学部教員が「高等部コース制」の研修へ参加し本校の進路指導等に理解を深めることができたか。 ・全校教員対象の「進路指導に関する研修会」を実施できたか。 テーマ：中学校中学部卒業後の進路選択、高等部卒業後の進路 ・高等部3年生担任対象に「進路決定までの流れ」をテーマにミニ研修を実施できたか。 ・7月に施設見学会を実施できたか。 ・児童生徒の校外学習を通してキャリア教育の推進が図れたか。 保「学校は子どもの将来の進路や職業について段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている」80%以上維持[81.4%（6.8P↑）]	
2 教員としての資質と教育力の向上と組織力の向上	(1) 教員全員の指導力、授業力の向上を組織的に推進し、子どもたちへ「魅力ある授業」の実施	(1) ア 「各教科の内容充実」、「横断的な指導」実施に向けた検討 イ ・授業力向上のための授業見学や公開授業の充実と工夫と出前授業の実施 ウ 校外の研修等の情報共有 ・府内外の研修への積極的に参加と伝達講習の計画的な実施徹底。 ・効果的な研究協議の方法の検討、実施	(1) 保「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」80%以上[78.8%（0.8P↑）] 保「教職員は子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している」90%以上維持[90.4%（0.6P↓）] 教「児童生徒の実態を踏まえ指導内容や指導方法、学習の形態の工夫改善精選を行っている」85%以上維持[95%（2.4P↑）] ア ・「魅力ある教育活動」に向けて「各教科の内容充実」や「横断的な指導」について話し合う時間を設定し、授業内容に活かす検討ができたか。 イ ・地域等を対象とした活発な公開授業と（校外から10人以上参加/各回）またより多くの教員が授業見学できるよう検討し実施できたか（他学部・他学年など2つ以上見学）。 ・初任者と10年目研修者の研究授業を公開できたか。 ・出前授業が実施（各学部1回以上）できたか。 ・伝達講習の内容の検討、定期的な実施ができたか。 ウ ・研修・研究に参加した成果を他の教員に伝える機会を設けられている」75%以上維持[80%（5.3P↓）] 教「研修・研究に参加した成果を他の教員に伝える機会を設けられている」75%以上維持[80%（5.3P↓）] ・効果的な研究協議の方法についての検討に向けてアンケートを	

府立守口支援学校

	(2) 「高度な専門職として」より確かな人権意識を身に付け、専門性の向上をめざす (3) 教員間の意思疎通を図り、相互に資質を高めあう同僚性の高い職場環境づくり (4) ICT 機器の積極的かつ効果的な活用による学びの深化。	エ 校内研修の充実を図る ・教員を講師としたテーマ研修や事例検討等の「もりぐち支援 Lab」の継続実施 ・教員のニーズを聞き取り、見合った校内研修を実施 ・充実した部別研修の実施形態の検討 (2) ア 専門性の向上 ・研修を実施し「児童生徒の実態把握」等の手段についての学びを深める ・実態把握のためのチェックシートを周知し、活用する。 イ 人権意識の向上 ・「児童生徒の人権を守るためにできること」、「自己肯定感を高める取り組み」についての学習会を実施 (3) ア 職場におけるハラスメントの防止 イ 教員間のコミュニケーション機会増 ・「首席カフェ」の継続実施に向けた検討 ・研修等を活用したコミュニケーション機会の設定 (4) ア ICT の効果的な活用 ・ICT 機器やアプリ、クラウドサービスの活用支援方法の研修を実施 イ ICT を活用した教材づくり ・「オンラインストレージ」を活用した教材データの整理と活用 ウ 統合 ICT ネットワークの円滑な活用	実施し検討できたか。 エ ・「太田ステージ」、「個別の教育支援計画」、「事例検討会」をテーマに実施し、参加率 70%以上。 ・「具体的な取り組み計画や内容」を継続して実施できたか。 教「校内の研修は教育実践に役立つような内容になっている」75%以上維持[80%（3.2P↑）] 教「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」80%以上[80%（2P↑）] (2) 保「教職員は子どもの障がいについて理解している」90%以上維持[94・2%（2P↑）] 教「初任者等、経験の少ない教員を校内で育成する体制がとれている」65%以上[60%（2.1P↑）] ア ・臨床心理士による研修を実施できたか。 ・講師経験のない教員が講師になり、校内での研修をできたか。 ・チェックシートの周知、活用ができたか。 イ ・人権に関する学習会や校内研修を2回実施できたか。 (3) ア 教「教員間におけるセクハラ、パワハラ等の人権侵害事象が発生しないために啓発を行っている」85%以上維持[85%（3.4P↓）] イ ・研修等の場を活用し、前年度以上にコミュニケーション機会を作り出せたか 教「日々の教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができている」75%以上維持[80%（4.2P↑）] 教「教職員の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」75%以上維持[85%（8.2P↑）] (4) ア 保「学校は子どもに1人1台端末(タブレット PC)等を効果的に活用している。」65%以上[56.4%（6.7P↓）] ・授業に役立つ ICT 活用の研修（参加率 70%以上）やミニ研修会（参加率8人以上/各回）が学期に1回以上実施できたか。 ・本校の ICT 活用の取り組みについての保護者対象説明会を実施できたか。 イ ・全教員がオンラインストレージ内に教材を格納できたか。 ・ICT 機器とそれ以外の教材を効果的に活用できたか。 ウ トラブルなく統合 ICT ネットワークの新環境を活用できたか。	
3 人権を尊重し、児童生徒・保護者から信頼される学校づくり	(1) 保健・安全・衛生管理に関する指導・支援の徹底を図り、安全で安心な教育環境を推進 (2) 危機管理体制の充実に向けた防災教育の取り組み推進 (3) 体罰防止と個人情報 の適切な管理運用を行う体制の確立。	(1) ア 校内の防災、緊急時への備えの充実 イ 事故防止に向けた研修の充実や施設整備や安全点検の適切で迅速な対応 (2) ア 防犯、防災学習の充実に向けた検証と改善 イ PTA、関係機関と協働した防災体制の推進 (3) ア 人権アクションプランに基づいた行動の継続推進 ・人権研修の実施 ・人権アクションプランの周知徹底 イ ・個人情報の取り扱いに対する意識向上	(1) ア 保「地震や台風などの場合、児童・生徒にその対応が知らされている」90%以上[96.2%（11.7P↑）] ・大規模災害対応 PT で「新大規模災害マニュアル」の検証と周知ができたか。 ・備蓄品のローリングストックの検証が出来たか。 ・定期的な通学バス安全研修、バス連絡会（安心メール、バス携帯等の操作方法確認含む）の実施が定着したか。 イ 保「学校は施設・設備の点検、事故防止に配慮している」70%以上維持[70.5%（6.6P↑）] 教「施設・設備について日常的に点検や管理が行われている」80%以上維持[87%（4.9P↑）] ・安全点検や施設整備の実施に関する内容を都度、ブログや文書等で保護者に周知できたか。 ・食物アレルギーの緊急時対応研修の実施ができたか。 ・食物アレルギー対応マニュアルに基づいた対応を徹底できたか。 (2) ア ・前期の防災教育と外部機関と連携し、安全研修が実施できたか（3回以上） ・昨年度の反省を活かした「引き渡し訓練」を実施できたか イ 保「学校は大規模災害に備え迅速かつ適切な対処ができるよう対策の検討と整備を行っている」80%以上維持[87.2%（8.5P↑）] ・災害用備蓄品の不足分の計画的な購入補充ができたか (3) ア ・人権侵害事象ゼロであったか。 ・人権研修を2回実施できたか。 ・全校で児童生徒へ「さん」「くん」の呼名徹底のための啓発活動ができたか。 イ ・誤配付防止に向けたクラスごとのミニ学習会を4月に開催しクラス内での確認、また他クラス等と情報交換できたか。 ・個人情報目録の更新の検討を進めることができたか。	

府立守口支援学校

	（４）教職員全員が心身ともに健康な状況で児童生徒に接する心構えを育成。	（４） ア ワークライフバランスを意識した働き方への意識改革	（４） ア ・定時退勤日（週１回）の徹底実施と時間外勤務時間が R6より 10％削減出来たか ・ストレスチェックの「総合健康リスク指数」106以下[106] ・「伴走型支援プログラム」に参加し、学校のミッションやビジョンに沿った取り組みを進め、働きやすさと働きがいの両立、よりよい学校づくりを実現できたか。	
4 センター的機能の充実と地域連携の推進	（１）支援学校のセンター的機能の発揮や内容の充実 （２）本校の魅力的な取り組みを積極的に発信するなど広報活動の充実により保護者、地域、関係機関との連携強化。 （３）交流及び共同学習の充実や地域活動への積極的参加で相互理解の構築。	（１） ア 関係機関との連携強化 ・新就学、進学に向けた市教委との情報共有 ・センター的機能の発揮 地域の学校教員対象の研修会（「守口門真支援教育 Lab」「北河内支援教育 Lab」）の開催 （２） ア ホームページの充実を図る ・見やすいホームページに向けた検討 ・定期的なブログ UP による教育活動の紹介 イ 本校の教育活動に係る広報、理解啓発資料の改訂版の作成 （３） ア 近隣校との交流の充実と地域の交流活動への参加 イ 地域でのあいさつ、清掃運動実施 ・児童生徒活動、全校集会の検討と見直しによる充実した活動の実施	（１） ア ・就学に向けた市教委との連絡会の時期を早め実施（３回以上） ・守口門真支援教育 Lab の開催（３回以上） ・守口門真支援教育 Lab へ参加率が上げることができたか。 （外部からの参加のべ 110 人以上/全回合計） （校内より 10 人以上/各回） （２） ア ・保護者の閲覧数増加に向けたブログ掲載の計画を立てられたか。 ・ホームページの内容を検討することができたか。 ㊦「学校は HP の学校ブログ等で子どもたちの様子を知る機会を設けている」75％以上維持[82.7％（7.3P↑）] イ ・全教職員で協力して R7 創立 30 周年式典を実施することができたか。分掌と連携し年間を通じた記念活動が実施できたか。 ・近隣中学校（守口市立中学校全校を対象）への広報活動を実施できたか。 （３） ア ・各学部主事や係より交流活動の報告会を行い全校で共有できたか。保護者へも交流の活動を周知できたか。 ・居住地校交流を積極的に進めることができたか。 ㊦「学校は子どもが他の学校の子もたちと交流する機会を設けている」80％以上維持[87.2％（11.8P↑）] ㊦「近隣の小中高等学校との交流の機会を積極的に設け教育全般に活かしている」80％以上維持[84％（1.3P↓）] ・「春を呼ぶコンサート」へ全校で参加することができたか。 ・PT で検証と次年度以降の引継ぎ部署との調整ができたか。 イ ・昨年度の反省をもとに児童生徒活動や全校集会の検討と見直し ができたか。 ・生徒会による地域でのあいさつ運動ができたか。 ・清掃運動実施（前期・後期各 1 回）できたか。	